

東京都豊島区

# サンシャイン水族館

天空のオアシスで超水塊にひたる

水塊度	★★★★★
ショー	★★★★
海獣度	★★★★
海水生物	★★★★★
淡水生物	★★★★★



サンシャインリングのアシカは天空のオアシスを象徴する存在。人を見下ろして気持ちよざげに泳ぐ。



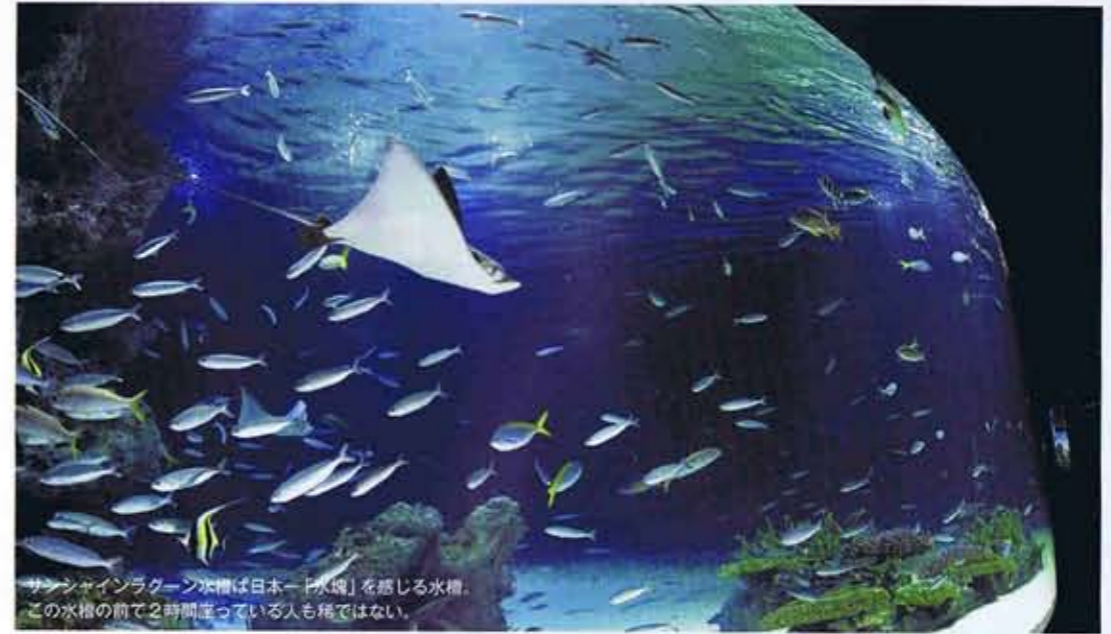
高層ビルの中に浮かぶ水塊。青空が海になる。



ペリカンも水族館ならではの展示。餌を捕る姿に驚く。



ペンギンも水族館ならではの展示。餌を捕る姿に驚く。



サンシャインラグーン水槽は日本一「水塊」を感じる水槽。この水槽の前で2時間経っている人も稀ではない。

## 天空のオアシス

世界の都市型水族館の先駆けとして生まれたサンシャイン国際水族館が、今度は新しい水族館の時代を開く水族館として驚くべき進化を遂げて生まれ変わった。「天空のオアシス」サンシャイン水族



サンシャインラグーンを借景にした「チョウチョウウオの舞」水槽。



白砂の海底には、舞うように泳ぐマダラトビエイが似合う。



サンゴ礁の海では、造礁サンゴが美しく育つ。

高層ビルの屋上にある水族館に、他の巨大水族館にも負けない水塊があるとはにわかには信じられない。だが、それを実現したのが超進化系水族館たるところ。進化は弱者にこそ起きる現象なのだ。吹きさらしの屋上は爽やかに緑化し、アシカたちが人々の頭上を泳ぐリング状水槽を開発することで、天空のオアシスを象徴するエリアとなった。

命と潤いのコバルトブルー 屋内の1階（ビル10階）部は、海のゾーンだ。サンシャインの光が水中に届くような水槽づくりが心がけられ、サンゴ礁に関わる海の展示が中心になっている。入ってすぐコバルトブルーに広がる海を背景にした「サンゴ礁の

館の誕生だ。

実はこのリニューアル、筆者が展示プロデュースをさせてもらったので少し力が入ってしまったが、人は水族館の「水塊」に惹きつけられると主張する筆者であるから、その水塊度は日本一と言っても過言ではない。





アマゾンの巨大魚たち。サンシャインラグーン水槽に次ぐ大水槽だ。



淡水エリアは大地の緑が美しいエリア。水草の緑が青い水中に映える。



カエルたちのコーナーは充実している。



アジアアロワナが水田の水路から出てきた。

PICK UP

水中パフォーマンス



サンシャインラグーンで行われる水中パフォーマンスは必見！



氷の下を泳ぐバイカルアザラシ。

1階から一転して緑の光があふれる展示へと変わる。ここでも「どこでもドア」型水族館の本領発揮。小さくなって水草の森の中に入り込み、熱帯のデルタ地帯をすり抜

け、南米のカエルたちと挨拶を交わす。冷たい湖のバイカル湖にたどり着けば、張りつめた分厚い氷の下で、バイカルアザラシと湖底を散歩する。  
この水族館では、大人が童心に戻るのは必要はない。大人は大人の感性で十分に潤いと癒しと元氣を得、子どもは子どもの視点で驚きの水中世界を見つられる。

TEL 03-3989-3466  
住所 東京都豊島区東池袋3-1  
サンシャインシティ ワールドインポートマートビル屋上  
URL <http://www.sunshinecity.co.jp/sunshine/aquarium/>  
開館時間 10時～20時 (4月1日～7月19日/9月3日～10月31日)  
10時～21時 (7月20日～8月10日/8月17日～9月2日)  
10時～18時 (11月1日～3月31日)  
9時30分～21時 (8月11日～8月16日)  
休館日 なし  
入館料 大人1800円、小中学生900円、幼児(4歳以上)600円  
シニア(65歳以上)1500円  
交通 池袋駅から徒歩10分。または地下鉄有楽町線東池袋駅2番出口から徒歩5分。車=首都高速池袋線東池袋出口から地下駐車場直結  
駐車場 あり



幻想的なクラゲトンネル。クラゲの見せ方はどれも面白い。



海底の巨木が立ち、大きくキサンゴの間を魚たちがすり抜ける。



マンボウは健在。青い水中をゆらゆらと泳ぐ。



マイワシの群を割って、コブダイが悠然と泳ぐ。



暗い水槽でもタカアシガニはひときわ目を引く展示方法になっている。



変身の名人ミミックオクトパス。



ゴンズイ玉が水中をうろうねと移動する。

そんなわけで、サンシャイン水族館の水槽はどれも、ドラえものの「どこでもドア」のように水中世界へとワープできる。  
屋内2階(ビル11階)は陸の水城のエリアだ。コバルトブルーの

大人が満足する「どこでもドア」

だれもが感嘆の声を上げるのが大水槽「サンシャインラグーン」だ。どこまでも続く白砂と紺碧のかなたに消えるコバルトブルーのグラデーションが、いとも簡単に私たちを南海のラグーンへと導いてくれる。  
一方、日本近海の家や海中の鍾乳洞、冷たい深海の展示なども負けてはいない。多くの水族館では関心を集めにくい暗めの水槽に工夫を凝らして、生き物たちの動きを活発にし、計算し尽くした照明によってその命を浮かび上がらせることで、観覧者を惹きつける。